

布谷 史人 (マリンバ)

国際的に活躍するマリンバ奏者の一人として世界にその名を連ねている布谷氏は、現在はドイツ国立デトモルト音楽大学のマリンバ講師として後進の指導にあたりながら、オランダの楽器メーカーの Adams マリンバ専属アーティストとして、ドイツ国内を拠点にヨーロッパ各国、日本、アメリカで演奏活動を繰り広げている。

タンゴ界の巨匠アストル・ピアソラに関する音楽を扱ったイタリアでのコンクール「第3回リベルタンゴ国際音楽コンクール」、アメリカの「Ima Hogg 若手音楽家のためのコンクール」でそれぞれ1位を受賞し、ドイツでの「第3回世界マリンバコンクール」3位、アメリカでの「Percussive Arts Society 国際マリンバコンクール」2位の他、様々な国内・国際コンクールにおいても上位入賞を果たしてきた。これまで「赤とんぼ」、「種を蒔く人」、そしてドイツの Oehms Classics レーベルより「ピアソラ・オン・マリンバ」、「クラシックス・オン・マリンバ」をリリースし、その2枚は「レコード芸術誌」においてどちらも特選盤に選ばれた。

秋田県大館市に生まれ、山形大学総合教育課程音楽文化コースを卒業後に渡米。ボストン音楽院マリンバ演奏家コース修了した後、同音楽院創立以来の初めてのアーティスト・ディプロマ科のマリンバ専攻生として、学費全額免除の奨学金のほか、学長からも特別賞与を授与された。

2019年3月には Oehms Classics より「コンチェルトス・オン・マリンバ」をリリース予定。オフィシャル・ウェブサイト www.FumitoNunoya.com

ベンヤミン・ヌス Benyamin Nuss (ピアノ)

1989年ドイツに生まれ、ケルン音楽大学アーヘン校でイリヤ・シェプス教授のもとで研鑽を積み、ソリストとしてロンドン交響楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演した。ドイツ全土の若い音楽家が競い合う Jugend Musiziert、ドイツで2005年に行われた Steinway コンクール、2006年の国際コンクール「Prix d'Amadéo de Piano」において1位を受賞し、「Best Of NRW」に選ばれ、奨学金を受賞しドイツ各地でコンサートツアーを行ってきた。名門クラシック・レーベルであるドイツ・グラモフォンから、デビューアルバム「Benyamin Nuss plays Uematsu」、セカンドアルバム「EXOTICA」をリリースした。ジャズ分野においても、ヌス自身が率いるカルテットや父・ルートヴィヒとベースのジョン・ゴールズビーとのトリオでも活動を展開している。

ヤニック・パジエ Yannick Paget (指揮)

パリ国立高等音楽院指揮科および打楽器科卒業。マレク・ヤノスキ、佐渡裕、ヨルマ・バナラなどの著名な指揮者に教えを受けたほか、ロンドン王立音楽院でも学ぶ。ラムルー管弦楽団では副指揮者として佐渡裕のアシスタントを務め、05年に兵庫芸術文化センター管弦楽団のアソシエイト・コンダクターとして日本に招かれる。以来、活動の拠点を日本に置き、08年より大阪教育大学にて教鞭をとるかたわら、多くの演奏会で同大学合唱団・オーケストラを指揮。これまでに、ルーマニア国立ブラショフ・フィルハーモニー交響楽団、ピカルディ管弦楽団、ラムルー管弦楽団、台北市立交響楽団など、ヨーロッパやアジアでも各演指揮者として多数の公演に参加。作曲家としても数々の国際コンクールのファイナリストに選ばれており、映画、舞台、オペラやオーケストラへの楽曲提供も行っている。その作品は、フランスやアメリカのラジオ局でも放送された。

本公演特別オーケストラ



林 七奈 (ヴァイオリン)

東京藝術大学器楽科卒業。その後神戸市室内合奏団を経て、2005年より大阪交響楽団コンサートマスター、2007年より3年間イタリア、コモの歌劇場室内オーケストラのコンサートマスターも兼任。関西弦楽四重奏団メンバー。



竹原 奈津 (ヴァイオリン)

桐朋女子高等学校音楽科(共学)、桐朋学園大学音楽学部を卒業後、ドイツ国立フライブルク音楽大学の大学課程・ソリスト課程を首席で卒業。ドイツ演奏家国家資格取得。国内外のコンクール受賞、CDや教則本出版がある。



篠原 智子 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学卒業、同研究科修了。サイトウ・キネン・フェスティバル松本、ヴィオラスペース、プロジェクトQ、PMF音楽祭、水戸室内管弦楽団等に参加。現在、東京都交響楽団ヴァイオリン奏者。



菅谷 史 (ヴァイオリン)

千葉県茂原市出身。桐朋女子高等学校音楽科、同大学カレッジディプロマコース終了。原田幸一郎に師事。サイトウキネンオーケストラ、水戸室内管弦楽団など様々なオーケストラや音楽祭に参加。現在ソロ、室内楽、オーケストラで活躍。



中川 和歌子 (ヴァイオリン)

桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学卒業。同大学研究科修了。国内オーケストラにて、客演アシスタント・コンサートマスター、第2ヴァイオリン首席奏者を務める。桐朋学園大学附属子供のための音楽教室講師。



直江 智沙子 (ヴァイオリン)

桐朋女子高等学校を経て桐朋学園大学卒業。在学中より小澤征爾音楽塾、宮崎国際音楽祭、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・フェスティバル松本など、多数の音楽祭に参加。財団法人ロームミュージックファンデーションの奨学金を得てベルリンに留学し、現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団第2ヴァイオリン首席奏者を務める。



山本 翔平 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学、同大学研究科修了。2007年、東京都交響楽団に入団。Quartetto Hymnusのメンバーとして活動し、2012年と2015年に松尾学術復興財団より助成金を得る。リゾナーレ室内楽講習会にて、「緑の風音楽賞」を受賞。現在、東京都交響楽団第2ヴァイオリン副首席奏者を務める。



荒井 章乃 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学卒業。第6回大阪国際室内楽コンクール第2部門ピアノ3重奏で第3位を受賞。現在、ソロ・室内楽・オーケストラ等幅広い演奏活動を行う。アクロス弦楽合奏団メンバー。桐朋学園大学附属音楽教室講師。



久米 浩介 (ヴァイオリン)

愛知県立芸術大学を卒業。小澤征爾音楽塾、プロジェクトQ、リゾナーレ室内楽セミナーに参加。神奈川フィルハーモニー管弦楽団団員。



大島 亮 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学研究科修了。第7回東京音楽コンクール弦楽部門第1位、第42回マルクノイキルヘン国際コンクールディプロマ賞受賞。ヴィオラスペース、木曾音楽祭、サイトウキネンオーケストラ等に出演。現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者。



瀧本 麻衣子 (ヴァイオリン)

東京藝術大学卒業後、シュツットガルト音楽大学院に留学。2010-2012年ロームミュージックファンデーション海外派遣奨学生。第10回東京音楽コンクール弦楽器部門第3位。サイトウキネンオーケストラ、水戸室内管弦楽団、別府アルゲリッチ音楽祭などに参加。



森口 恭子 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学研究科修了。東京音楽大学を首席卒業、併せてNTTdocomoより奨学金を授与される。東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭等に出演。現在、読売日本交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団ヴァイオリン奏者。



上森 祥平 (チェロ)

日本音楽コンクール第1位、「松下賞」受賞。2005年ベルリン芸術大学卒業。NHK-BS プレミアム、FM他多数出演。京都市芸術文化特別奨励者及び京都府文化賞奨励賞受賞。齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。



福富 祥子 (チェロ)

東京藝術大学大学院修了。同大学院にて「演奏家の心身の調和」について研究し博士号(音楽)を取得。ベルリン芸術大学修了、ドイツ国家演奏家資格を取得。ローマ国際室内楽コンクール第1位、ヨーロッパ国際音楽コンクールデュオ部門最高位。現在、東京藝術大学非常勤講師。



飯島 哲蔵 (チェロ)

東京藝術大学を経て、同大学院を修了。チェロを河野文昭、山崎伸子、上森祥平の各氏に師事。ベルリンにてマルクス・ニコシュの元で研鑽を積む。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団チェロ奏者。



長谷川 順子 (コントラバス)

相愛大学卒業。同研究科修了。アメリカ・ルーズベルト大学シカゴ芸術音楽院に留学。留学中、シカゴ・シビックオーケストラに所属。現在、神戸市室内管弦楽団、Tangueros Articos、長岡京室内アンサンブルメンバー。東京在住フリーランス。相愛大学非常勤講師。